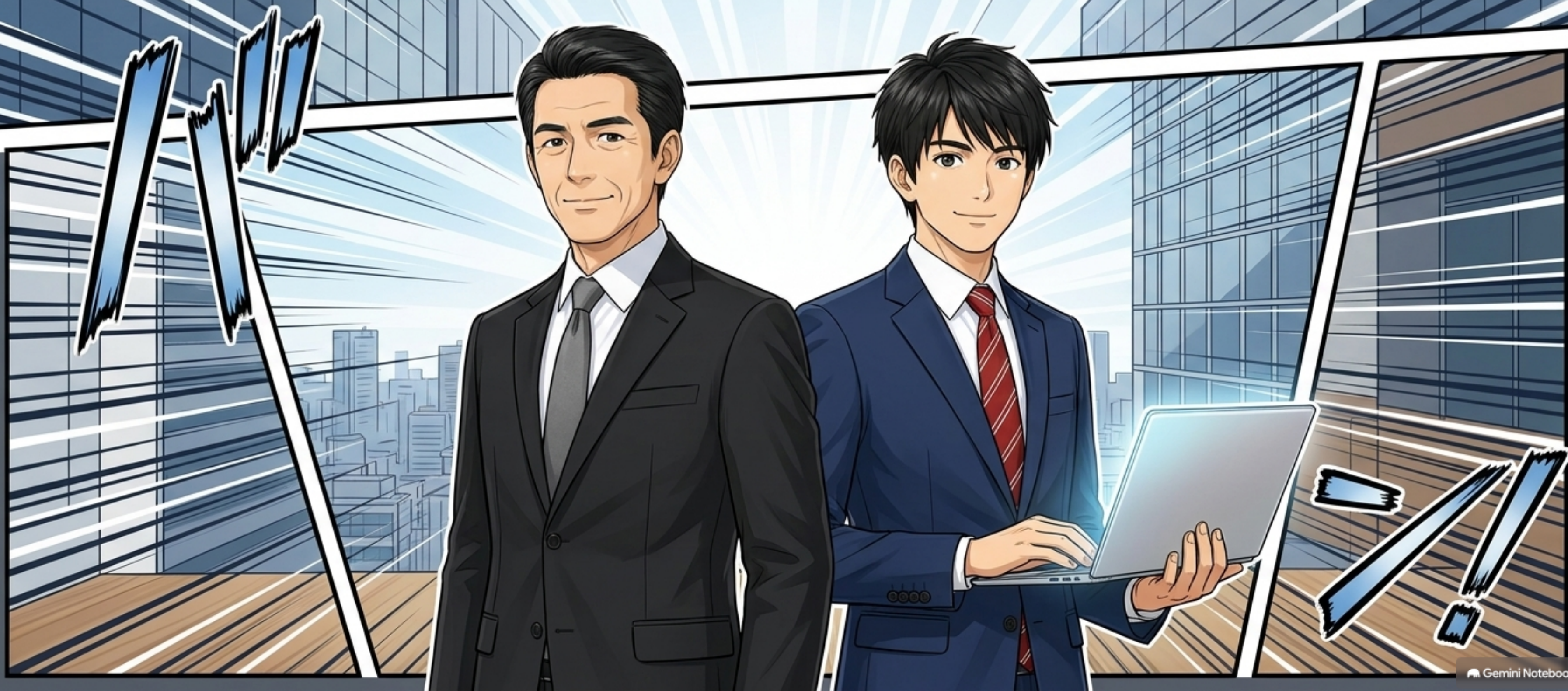


プロジェクトの「全体像」を共有せよ。Claudeを最強の相棒にする実践ガイド

一問一答の孤独な作業から、阿吽の呼吸の協働へ。



AIを単なる「便利な検索エンジン」や「下書き作成ツール」として使っていないだろうか？



何度も指示を出し直し、細かく修正し続ける日々。
その原因は、Claudeにプロジェクトの「全体像」が伝わっていないことにある。

狭い机:最新の質問1つだけ。
推測で答えるための外れに。

広い机:企画書、議事録、
データが整理された状態。
阿吽(あうん)の呼吸で対応可能!

「君のClaudeの
『作業机』は
狭すぎるんだよ。」

「Claudeが一度に把握できる
握できる情報容量、
つまり『作業メモリ』(「
コンテキストウィンドウ」)を
最大限に広げるんだ。」

ああっ！

【Chatモード】 vs 【Coworkモード】		
 役割	「相談役・知恵袋」	 「頼もしい実務代行者」
 得意なこと	アイデア出し、 一問一答	複数ファイルからの レポート作成、 外部ツール操作
 シーン	「メールを丁寧にして」	「SlackとDriveから 状況報告を作って」

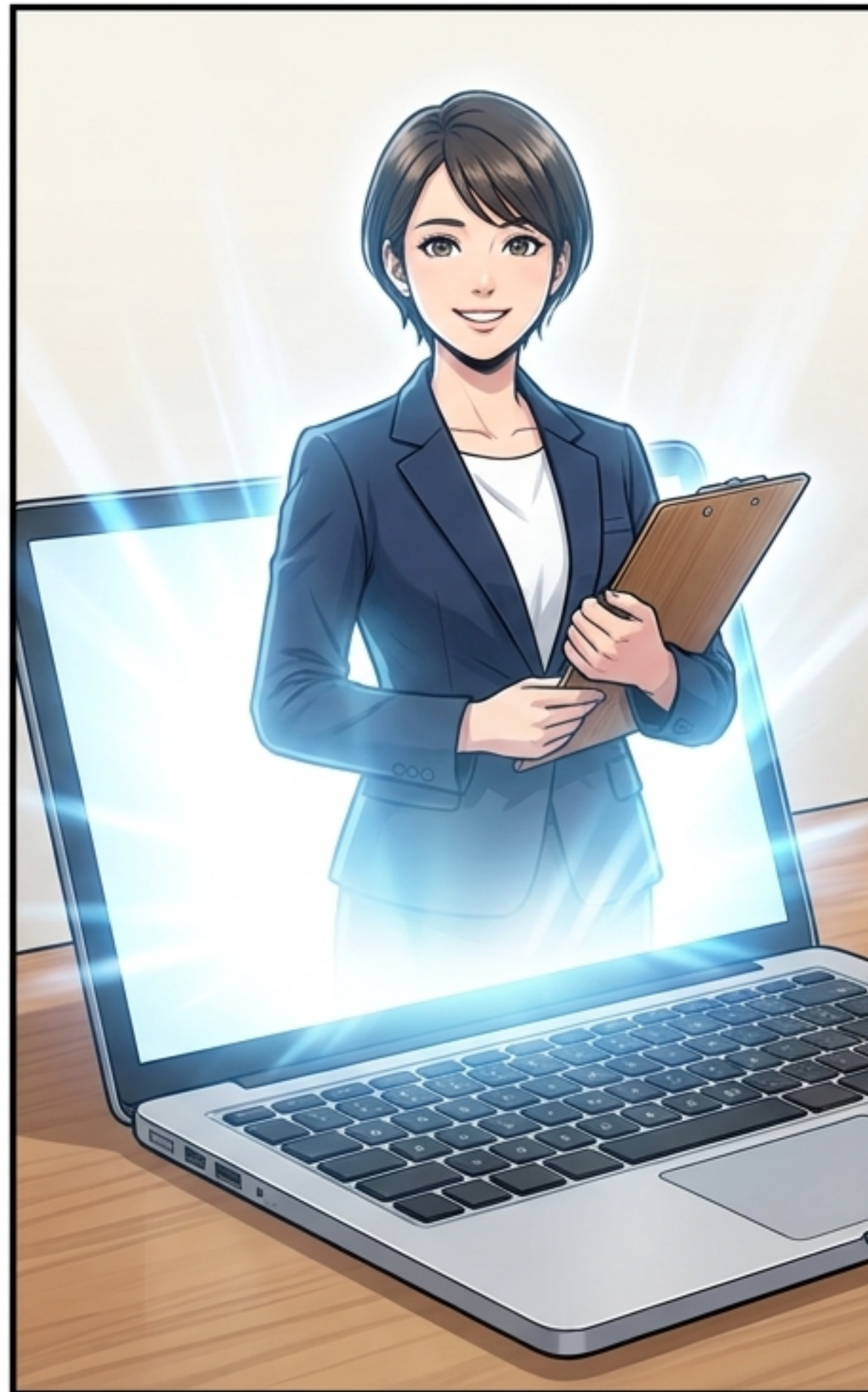
「まずは実務に特化した『Cowork（コワーク）モード』に切り替えること。これが実務代行の第一歩だ。」

これが代行の第一歩だ。

「営業 (Sales) のご担当ですね。
では、Salesforceの顧客データや、
よく使うSlackのプラグインを
準備しましょうか？」



「配属初日の優秀な秘書に、
仕事環境を教える感覚だ。」



魔法のコマンドを入力する。
これが「プロジェクト専用モード」
の起動スイッチだ。

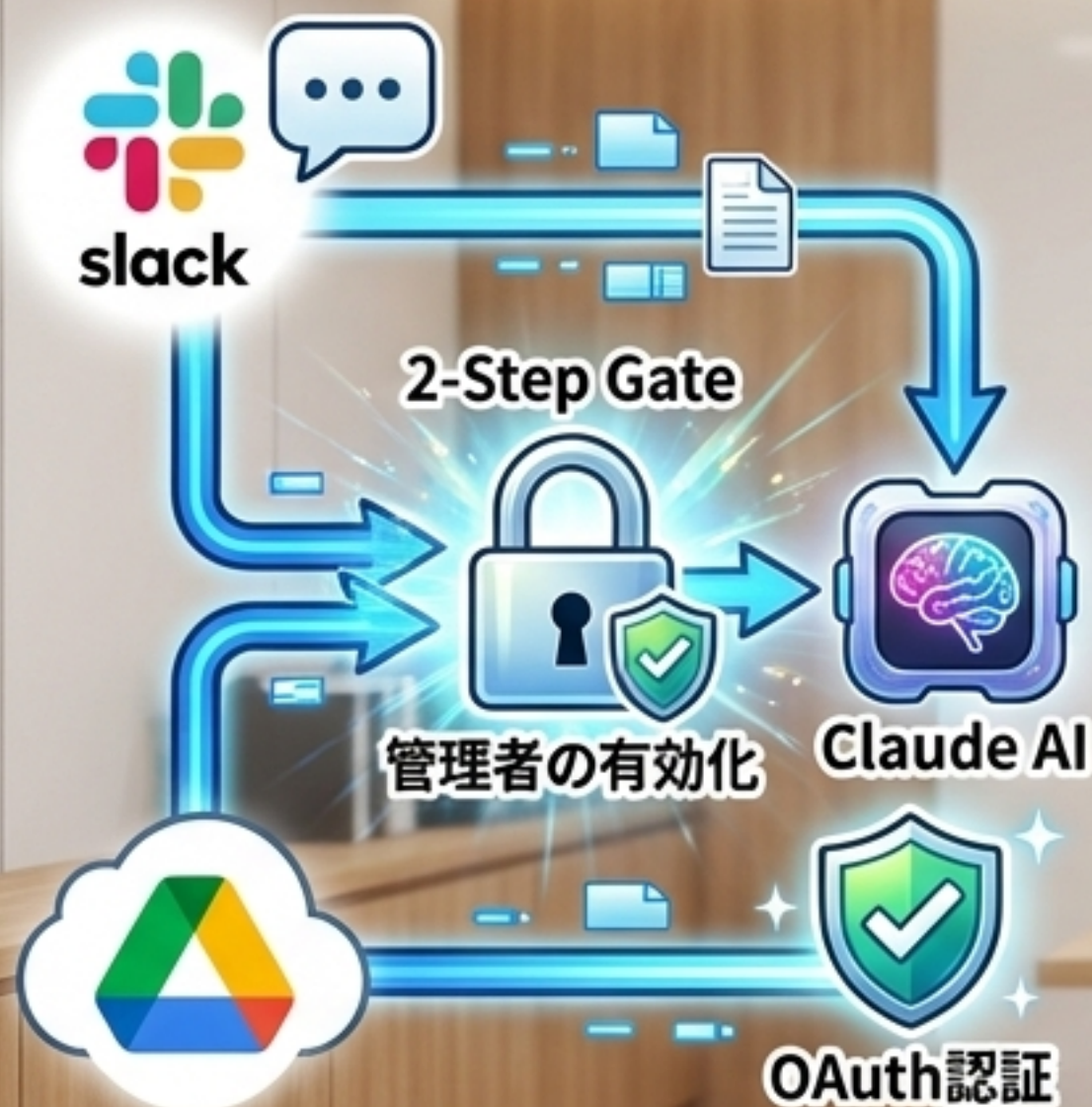


「おお…！
『あなたの役割は何ですか？』
って聞いてきたぞ。」

カチャ

カチャ

ルート3 - 「コネクタ」連携



外部ツールとの接続。
管理者の有効化とOAuth認証の
「2段階ゲートモデル」で安全に連携。

ルート2 - 「Project」機能



セッションをまったく長期記憶。
ブランドガイドラインなどを固定し、
常に理解した状態で待機させる。

ルート1 - フォルダの「共有」



最も手軽。指定フォルダ内の
ファイルを読み取り、成果物を直接
接そこに保存する。

「でも、
外部ツールと繋いで、
勝手に変なこと
されないかな…？」

「心配無用だ。本体から
隔離された『サンドボックス』で実行され、
重大な操作には必ず君の
『承認(Approve)』を求めてくる。」

【上級】自動化：

「毎週金曜17時に週報を読み
取り、ダッシュボードを更新して」

【中級】統合：

「Driveの仕様書とSlackの意見
を照らし合わせてレポート化して」

【初級】要約：

「直近3回分の議事録を読み
込んで未決事項を教えて」

一度出した下書きに対し、
「論理的に補強して」
「競合の視点を追加して」と
3～5回やり取りを重ねる。



「論理的に
補強して」

「競合の視点を
追加して」

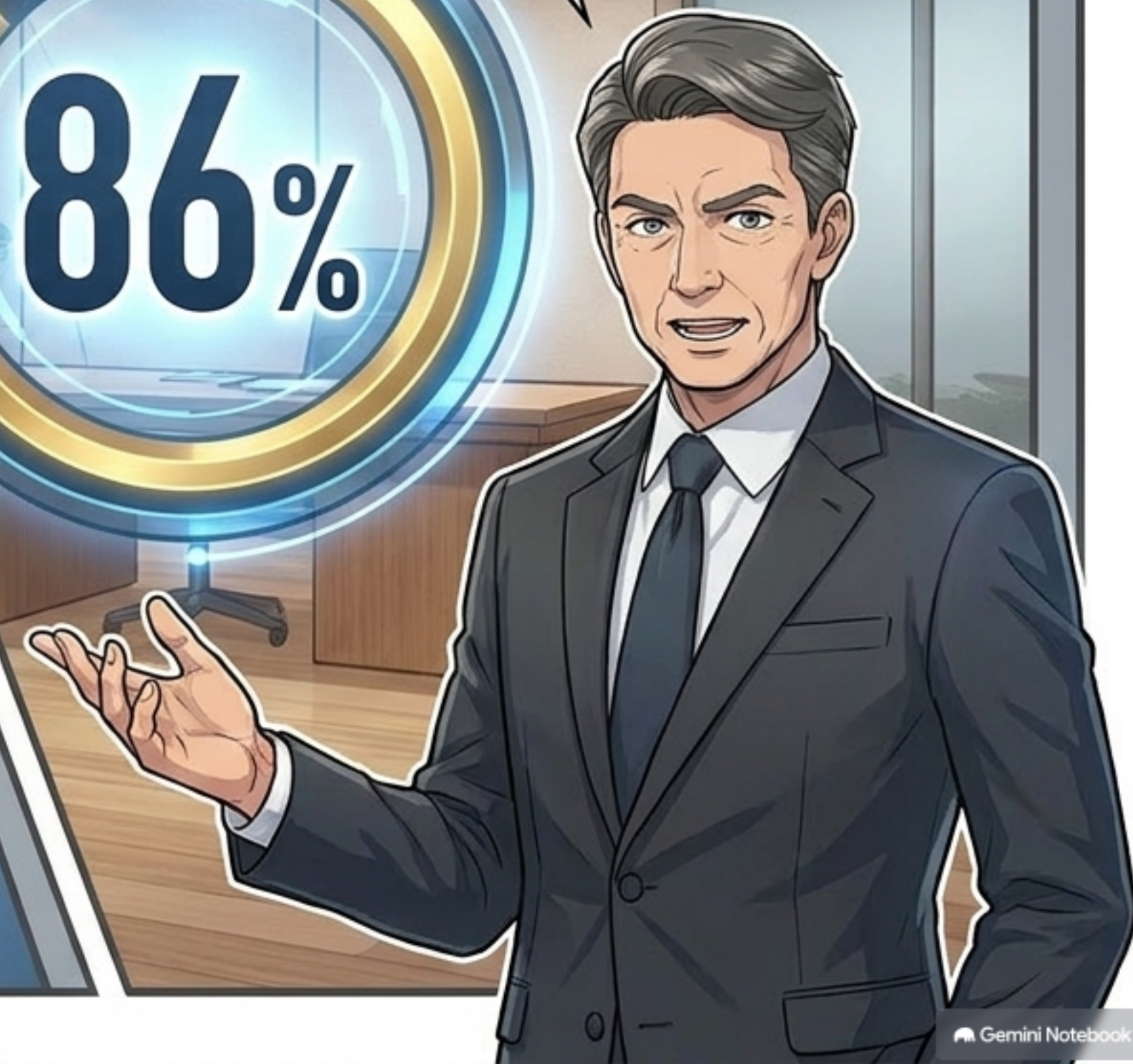
「論理的に
補強して」

「競合の
視点を
追加して」

これにより、一人で書くより
遥かに洗練された成果物が
短時間で完成する。



1発で完璧な答えを求めてはいけない。
質の高い成果を出すユーザーの
約86%が『反復(イテレーション)』を
行っているんだ。



86%



「見た目が完璧でも、
批判的評価
(Discernment)を
を怠るな!!」

【陥りやすい罠:アーティファクト効果】
洗練された成果物(アーティファクト)を見ると、
人間の事実確認などの見極め行動は
「最大5.2ポイント低下」する。



これで完璧だ!

「美しいレイアウト=正しい中身」という思い込みは禁物。
一歩引いて評価する目を持て。

なるほど、最初に
この条件を伝えることで、
切磋琢磨できる関係に
関係になるんですね！

Claudeを『イエスマン』に しないための3つの掟



掟1:「前提に異議を唱えて」
論理的な穴があれば遠慮なく
指摘させ、AI特有の追従性を防ぐ。



掟2:「不明点は質問して」
勝手な推測（ハルシネーション）を
を防ぎ、背景を聞き返させる。

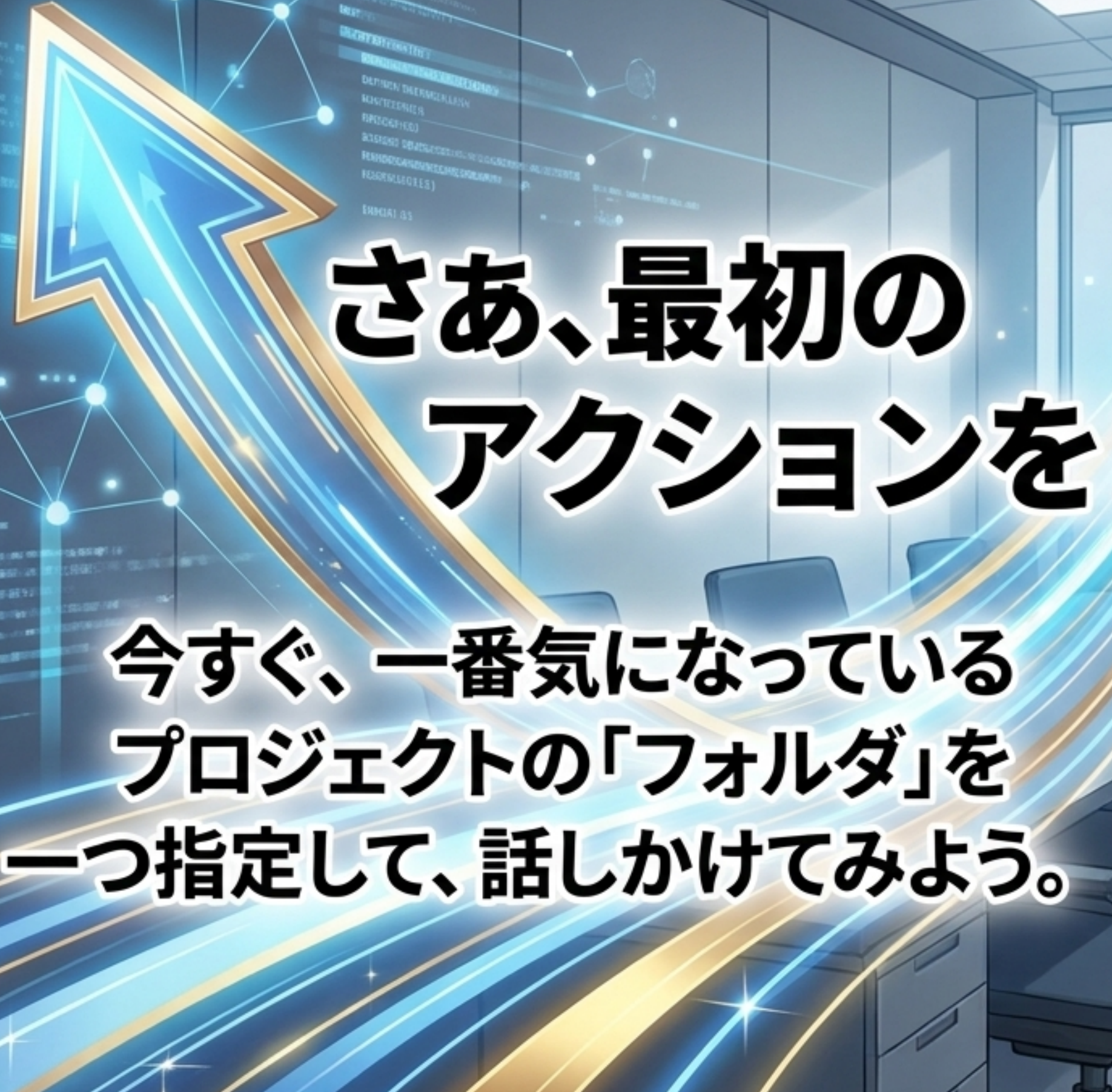


掟3:「思考プロセスを表示して」
Extended Thinkingを活用し、
回答前の推論過程をチェックする。

成果物を世に出す際、「AIデューデリジェンス声明」を添える。
この透明性こそが、AIを正しく使いこなすリーダーの証となる。

- ✓ 1. AIが支援した内容（例：データの統合）
- ✓ 2. 使用ツール（例：Claude Coworkモード）
- ✓ 3. レビュー概要（例：全数検品済み）
- ✓ 4. 人間が変更した点（例：戦略判断の追加）
- ✓ 5. 責任の所在（最終責任は私にある）

「そして最後に、
プロフェッショナルとしての
『誠実さ(Diligence)』だ。」



**さあ、最初の
アクションを！**

**今すぐ、一番気になっている
プロジェクトの「フォルダ」を
一つ指定して、話しかけてみよう。**

「もう孤独な作業じゃない。
最高の相棒がここにいます！」

「このフォルダの資料を読んで
『全体像』を説明して。
潜在的な課題を3つ提案し、
私の前提が間違っていたら
遠慮なく指摘して。」